すべての輝く女性の明日のために

JAUW会報

第250号
2013年11月

一般社団法人
大学女性協会

JAPANESE ASSOCIATION OF UNIVERSITY WOMEN

2013年 JAUW 全国セミナー　岡山にて

もくじ

〈全国セミナー・IFUW 総会報告〉

全国セミナー　高田企画委員長あいさつ… 2
基調講演、発表、パネルディスカッション… 3
IFUW 会長あいさつ、ワークショップ報告… 4
IFUW総会報告 …… 5
IFUW決議文 …… 6～7
新企画「ヒューマン・ストーリー」…… 8
事業紹介　広報・情報委員会、役員選考委員会… 9
支部だより　北から～南から　秋田・熊本支部… 10
活発になった支部間協働事業…… 11
新春のつどい、国際奨学生紹介と報告会案内… 12
自然科学講演会・音楽会の案内、理事会から

2013年 JAUW 全国セミナー

男女共同参画社会の形成と教育

主催：（一社）大学女性協会　　日時：2013年10月26日㈯・27日㈰　　場所：岡山市 ピュアリティまきび
後援：内閣府男女共同参画局・岡山県・岡山県教育庁・岡山市・岡山市教育委員会

企画委員長　高田　武子

本年度の全国セミナーは、昨年のシンポジウムに引き続き「男女共同参画社会の形成と教育」のテーマで、岡山市ピュアリティまきびでの開催となりました。本年度は３年に１度の IFUW 総会が開催された年でもあり、１日目は、そのIFUWイスタンブール総会の全体報告やワークショップ、参加者の感想、そして IFUW と JAUW が今後どのように関わっていくのか、また喫緊の課題をどのように認識し共有してゆくのかに付いて、会長から報告があり、「女性の地位向上と教育における男女平等」を共通の国際問題として確認できました。また２年間にわたる国内 NGO 委員会「女性の参画は何故進まないか」と教育委員会「ジェンダー平等の視点から家庭科教育を考える」についての詳しい調査研究報告があり、テーマに向けた重要な指針が示されました。最後に岡山支部と福岡支部からの活動報告を加えて、セミナー１日目を終え、夕方からの交流会では、岡山支部の志向で三船文彰さんと荒木渉さんのチェロとピアノのデュオ演奏が披露され、１日の疲れを癒し、また会員間での楽しい語らいの場となる一時を過ごす事ができました。２日目は開催地岡山在住の講演者とパネリストになるよう企画しました。講演は公益財団法人・大原美術館理事長の大原謙一郎氏（内容は本誌掲載）、パネリストには岡山大学ダイバーシティー男女共同参画室長・富岡憲治教授、岡山県立倉敷南高等学校長・山下陽子先生、そしてJAUW会員の東邦大学名誉教授・岩村道子前理事にお願いいたしました。パネルディスカッションでは、３人のパネリストからテーマに向けたそれぞれの立場からの取り組みが発表され、今を良き未来に続く良き社会にするために、教育をどのように変えてゆくか熱い意見が述べられ、また会場からも多く意見があり活発な意見交換ができました。最後のまとめでは２年間で具体的に上がってきた内容を検討し、提言に向けて理事会に委ねる事といたしました。

今年は初めての地方開催でしたが、地域の逸材とされる方々をご紹介でき、一般公開を含め広く（一社）大学女性協会の広報ができたこと、また多くの皆様のご協力を得たことを心から感謝申し上げます。

「全国セミナー」を岡山で開催して　　岡山支部長　杉村　洋子

台風の心配があった中、地方で初めて開催された全国セミナーを無事に終えることが出来ました。参加してくださいました、全国の会員の皆様へ感謝申し上げます。

また、一般公開を無料にしてくださいました本部の皆様、面倒な手続きや色々な連絡をありがとうございました。

今回お引き受けして一番良かったことは、支部活動だけでは、わかりにくいJAUWの活動が、世界と繋がり国際協力と世界平和に貢献していることを実感出来たことです。

第二に、受け入れ体制に関わった会員は、自ら手を挙げ、各々の仕事に取り組むことができました。岡山支部には自主性と協調性を持った多くの会員がいることを、改めて感じています。第三は、副会長の高田様の交友関係の広さに負うところではありますが、岡山の文化度の高さを会員の皆様にアピールできたことです。

そして、岡山市長をはじめ、県や市町村の関係者の皆様にも、JAUW の活動の素晴らしさをお伝えすることができました。双方向の交流になったことが大きな成果と思います。

最後に公開講演会に参加くださいました方々が私たちの仲間に加わり、新たな担い手となって下さることを願い、開催の報告としたいと思います。ありがとうございました。

実行委員の岡山支部会員

詳しい内容については報告書（来年２月発行）をお読み下さい

講演 ―「文化の力」を考え直す ―

公益財団法人大原美術館理事長　大原　謙一郎

自己紹介を一言でさせていただくと私は文化の力の伝道師でございます。文化は万能ではないが無力ではないといろいろな方に語りかけています。そして美術館は、一人ひとりのクリエーションと生活のクオリティを引き出していくために、また異文化の融和と日本の風格のために働きたい、役に立ちたいと考えております。

文化の力について「アインシュタインのバイオリン」と「アイゼンハワーの古美術」という話を心にとめていただければ大変嬉しいです。アインシュタインは相対性理論を編み出した大変クリエーション力の高い人ですが、バイオリンを愛して弾いていたと言われています。ビジネスの世界でもそうですが、クリエイティブな人は音楽、美術、演劇、詩といった文化に得意分野を持っていて生活のクオリティを上げています。

日本は明治以後、世界の良き市民でいたいと考えて行動してきましたが、敗戦後、日本の評価は下がってしまいました。そんな中で文化人たちは、ヨーロッパとアメリカで「日本の古美術展」をやりました。戦前、「吉備大臣入唐絵巻」で日本の文化の素晴らしさに触れていたロックフェラー３世に勧められて、アイゼンハワー大統領が見学に来られました。その後、日本国のとらえ方が変わったと言われています。このように国の立ち位置を決めるのも文化です。

美術館やビジネスや世界を驚かせるテクノロジーは、全国各地でその土地のゲネオス・ロキたちによって創りだされてきたものです。大原美術館もブリジストン美術館も地方で生まれました。日本を代表する企業もトヨタを始めほとんどの企業は地方で、それぞれの地域の魂のようなものを基盤にクリエイトしてきたものです。

大原美術館の内にはエルグレコの「受胎告知」を始め海外の作品が展示されています。美術館の窓から外を眺めれば江戸時代の職人が１枚１枚葺いた瓦屋根が見えます。それらがそれぞれに主張しあいながら融和しているのが倉敷の街並みです。こうした地域の魂を大事にし、文化は無力ではないと考えて大原美術館は一生懸命やっています。共鳴してくださる方が増えてくださればとても嬉しいです。

〈詳しくは報告書に掲載予定です。〉　岡山支部：西﨑　宏美

１部（１日目）10月26日㈯

Ⅰ　IFUW イスタンブール総会の報告
司会　CIR　担当理事　穐田　信子
全体報告　国際ネットワーク担当理事　城倉　純子
ワークショップ報告
「ワークショップ運営　―ノウハウから実施まで」
岡部　佳世
廣田　輝子
参加者から見た IFUW 総会
「七回目のIFUW総会への参加」　東京支部　平野　和子
「チャイルドブライド　トルコ大学女性協会員の報告を聞いて」
岡山支部　近藤みち子
「Hegg Hoffet 奨学生　菅野未知子さん報告」
代読：特設委員会委員　宮下　好子
IFUW と JAUW の今後の関わりについて
会長　阿部　幸子

Ⅱ　委員会報告
国内 NGO 委員会　「女性の参画はなぜ進まないか」
―全国地方議会女性議員へのアンケート調査報告―
丸山　庸子
矢鋪　真澄
教育委員会
「ジェンダー平等の視点から家庭科教育を考える」
―アンケートからみる男女平等教育の現状と課題―
長田　満江
中島美那子

Ⅲ　支部報告
岡山支部　「ESD の視点を持つ―岡山支部の取り組み」
片岡　雅子
福岡支部　「孫世代、子ども世代の女子教育について」
相良かおる

２部（２日目）10月27日㈰

講　演
―「文化の力」を考え直す―
公益財団法人大原美術館　理事長　大原謙一郎

パネルディスカッション
パネリスト
富岡　憲治　岡山大学　ダイバーシティー推進本部　男女共同参画室長
「岡山大学における男女共同参画への取り組み」
山下　陽子　岡山県立倉敷南高等学校長
「クリエイティブ人材の育成」
岩村　道子　JAUW前理事　東邦大学名誉教授
「女性の資質を活かす教育体制について思うこと」
司会・コーディネーター　企画委員長・副会長　高田　武子

全体のまとめ（提言に向けて）
司　会　会長　阿部　幸子
提案者　国内 NGO 委員長　五十嵐康子
教育委員長　長田　満江
社会福祉委員長　縄田眞紀子
発言者　国際ネットワーク担当理事　城倉　純子
その他
総合司会　牧島悠美子

第31回 IFUW 総会報告

イスタンブール
8月16～21日

キャサリン・ベル IFUW 新会長就任あいさつ

「成長とチャンスの期となる３年間を目指して」

初めに、イスタンブール総会を素晴らしい総会へと盛り上げて下さり、IFUW の将来に向けた重要な決定をして下さった皆様に、心から感謝いたします。総会では報告されませんでしたが、議論された２つの提案のうち、ジュネーブの機能的な専任事務局を存続させて、IFUW の成長を図るとする提案１が68％の支持を得て採択されました。その結果、定款の改訂案（任期を２期までとする点を除いて）と予算案も承認されたことになります。事務局はプロジェクトや計画に向けて動きだしました。特に、会員増強、募金活動、プロジェクトに焦点を置き、組織拡大を目指して、予算には充分留意しつつ、行動していくことになります。

理事会の構成員は、副会長：Ayden Birerdinnc、Susan Russell、Jennifer Strauss、Margaret Tait、財務理事：Elsbeth Von Navarini と決まりました。IFUW の機構をより民主的なものにすることを目指した提案１による定款の改訂によって、評議員会は廃止され、総会から次の総会までの間の投票は現在と同様に電子投票で行われます。従来と異なるのは、各 NFA に会員数に応じた投票権が与えられ、各々が投票に当たる「代議員」を任命することが必要になることですが、定款に従ってNFA役員の改選時に、代議員を新たに任命し直すことが可能です。来年、会計監査に関する投票を行う際、この方法を試行してみたいと思います。

イスタンブール総会時に開いた CIR の昼食会で CIR フォーラムの発足が決まりました。このフォーラムが様々な意見やプロジェクト提案を交換し合い、さらには、最善の慣行や IFUW 内部にある優れた専門知識や技能を NFA が共有・活用し合える仕組みになるのではないかと期待しています。そうした専門知識・技能は世界中の女性の中等、高等教育に役立つに違いないと思っています。CIR フォーラムの設置は、一人の会員からの提案によるものでした。今後も IFUW と会員を相互に近づけるのに役立つような積極的な提案をお寄せ下さるようお待ちしています。

挑戦課題が多く、エクサイティングでもあるこの時に、IFUW を導く機会を与えられたことに感謝し、来たる３年間を皆様にとって成長とチャンスの期と成すべく、理事会、スタッフ、委員会共々に今後に臨む決意を固めております。

JAUW ワークショップ報告　国際委員長　旦　まゆみ

「さまざまな社会において女性が
　リーダーシップを発揮している際立った事例から学ぶ」

日時：2013年８月19日(月)　14：00－15：45
場所：イスタンブール Kadir Has 大学　Fener 教室
全体の流れ：

- あいさつと進め方の説明:コーディネータ旦まゆみ（東京支部）
- メキシコ総会から得られたこと：Dorothy Meyer（NZFGW）
- ニュージーランドの女性研究者の事例紹介：Pushpa Wood（NZFGW）
- 日本のフェミニスト・カウンセラーの事例紹介：廣田輝子（京都支部）
- 日本の農村女性起業家の事例紹介:岡部佳世（東京支部）
- 配布したアンケートに、各自が考えるリーダーシップに必要な要素に印をつけてもらった
- ５～６人のグループに分かれて印をつけた点についてディスカッションした
- グループごとに話し合った内容を発表した
- スクリーンにアンケートの簡単な集計を映し出して共有した
- リーダーシップに必要な要素をまとめ、女性のリーダーシップ研修を各 NFA で考えるという提案をおこなった

前半の４人のプレゼンテーションはそれぞれ内容が豊富で、スライドや配布資料などを使ってリーダーシップについて考える前提が示された。後半のディスカッションは、各グループが活発に意見交換し、予定時間を延長してもらいたいと要望が出るほどであった。回収したアンケートの集計は、現場で入力作業をおこない、簡単なグラフにして映写したところ、参加者がとても興味を持って見ていた。このように、双方向のやりとりを交えたワークショップは、参加者も発表者も学ぶことが多く、有意義である。

ワークショップ会場にて

ヘッグ・ホフェット奨学生報告　菅野　未知子

大学女性協会の阿部様から、今夏のIFUW総会への招待のお電話をいただいたのは６月の下旬であったと記憶しています。

国際学会で発表できるまたとない経験になると思い、即座に参加の意を返答したことを覚えています。

参加しての率直な感想ですが、本当にこのような話をいただけて幸運だったと思いました。

Hegg Hoffet 奨学会の皆様や大学女性協会の皆様の温かいサポートのおかげで、福島や日本の現状と、これからの社会の有り方について、世界の皆様に少しでもメッセージを発信することができて、よかったです。

短い間でしたが、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

※ヘッグ・ホフェット奨学金とは、戦争で故国を追われた大卒女性の研究継続を支援するものとして始まり、今では大規模災害の被災者にも提供されています。2011年、日本では東日本大震災を受けて３名に授与されました。本年、IFUWの招きを受け、JAUWも援助をし、菅野さん（千葉大医学部）がイスタンブール総会に参加しました。

総会ツアーに参加して「Viva　トルコ！」　奈良支部　武久　文代

IFUW Istanbul 総会に参加して、積年の想いであったトルコ旅行を実現することができました。この旅行には、Oregon 大生の孫娘の同伴も認められ、より思い出深いものとなりました。総会の感想は、IFUW の世界的規模の存在意義と、参加者の熱意を再認識したことでした。

総会中滞在した Istanbul の街は、多国籍の人々の喧騒と雑踏に溢れ、東西文明の融合を実感できる刺激的で楽しい街で、世界遺産のモスク群には悠久の歴史の流れが感じられました。その後のトルコ西部への４日間のツアーは、現代と歴史の混交を感じる印象深いもので、特に、Cappadocia奇岩群の景観には圧倒されました。洞窟ホテルから眺めた早朝の空に漂うバルーンの光景は圧倒的なものでした。現在のトルコは、100％自給自足可能という農業、絨毯を主とする繊維産業、東西の融合文明を軸とする観光業に将来の可能性を秘めた国と言えるでしょう。

エフェソスの遺跡にて

大きな岐路に立たされた第31回 IFUW 総会　国際ネットワーク担当理事　城倉　純子

イスタンブール中心街タクシム広場での混乱が報じられてから、開催が懸念されていましたが、５日間に亘る会議は８月21日に無事終了しました。今回の第31回総会の特色は、一つには、今後のIFUWの方向性を決定する重要な二つの提案の採決があったこと、二つ目としては、本会議の中で JAUW 阿部会長が海外からの震災支援に対する御礼のメッセージを述べられ、さらに福島県出身のヘッグ・ホフェット奨学生菅野未知子さんによるプレゼンテーションがフロアを感動させ、いわば「ジャパン・デイ」と呼べる日があったことの二つにあったと言えます。

あいさつをする阿部会長

提案の採決に際しては、強い主張と質問が盛んに飛び交いました。提案１は、財政の赤字は依然継続だが、組織の民主化と新企画の創出でこれまでの体制の強化を図るというもの。提案２は、経費削減により会費内での黒字に納め、事務作業をMCIに業務委託し、執行部は趣旨内容運営に集中するというものでした。双方がその主張の裏付けとして組織分析を付していましたが､「教育」というテーマでの活動団体は他にないが明確な目的に欠ける・目的別のグループが存在していない・女性賞の新設・女性主導企業からの寄付を募る・会員の潜在能力をさらに生かす、などの分析内容は各NFAsに通じる内容でもあり参考にすべきと思いました。JAUWは事前に総会参加者間で勉強会を開き、事前検討に時間をかけ、１と２の折衷案を経たのち２に投票しましたが、提案１に可決されました。JAUWのように事前検討をしてきたNFAsからの意見はあまり出ず、検討不足気味の NFAs からの質問と強い主張が相次ぎましたので、その影響は大きかったといえます。MCIはなぜヴォランティアでないのかとの業務委託に対する意見では、国際会議の難しさを痛感しました。

会議の中日には、旦まゆみ国際委員長、岡部佳世会員、廣田輝子会員が、ニュージーランドとの共催で、リーダーシップをテーマにワークショップを開催しました。グループ討論後、岡部会員がアンケート集計結果を即統計処理しパワーポイントで明示した時には、対応の早さにフロアから感嘆の声が漏れました。会場はほぼ満員でした。

10月に開催される全国セミナーでは、IFUW 総会報告や各委員会からの提言のまとめを通し、JAUW としては IFUW の12決議に呼応する取り組みをどのように図っていくか、今後の JAUW の大きな課題に挑みたいと思います。

IFUW 決議文

IFUW の一員として私たちもともに考え、できるところから行動をしていきましょう。

決議 1　児童婚をやめさせよう

1．各国大学女性連盟・協会（NFAs）は自国政府に対して、女児の保護とくに彼女らが伝統、文化的慣行、宗教的信念の犠牲になるときに、その保護を推進するよう要請する
2．NFAs は、児童婚がもたらす結果を家族に対して教育し、もって女児の人権を保護するため、子どもを嫁にする問題を公にする努力を増大させる
3．IFUW はNFAs に対して、女児の早婚と結婚の強制およびそれがもたらす影響への意識を引き上げるための積極的な判決の公表を含む強い支援と適切な法制化を各国政府と司法に求めることを奨励する
4．IFUW は、ユニセフ、国連人口活動基金、その他の国際機関に対する協議資格を生かし、この決議の実施を支援する

幼すぎる花嫁
(Photo：Muhammad Javaid/Express)

決議 2　子どもを近親姦から守ろう

1．NFAs は自国政府に対して、あらゆる DV と虐待から女児と男児を保護するよう要請する
2．NFAs は近親姦が DV の犯罪的形態であると自国政府に認識させる努力を増やす
3．NFAs は学際的アプローチを取ること、および政府と司法から適切な法制化と判決の公表をふくむ、近親姦への認識を向上させるための支援を求めることが推奨される
4．IFUW はその常任委員会、ユニセフ、国連人口活動基金、UN Womenに対する協議資格を生かし、この決議の実施を支援する

決議 3　男女平等こそ暴力根絶へのカギ

1．NFAs は、女性と女児に対する暴力の防止には男女平等が基本要素であると強調するキャンペーンの実施を政府の適切な層に対して呼びかける
2．NFAs は、家庭内暴力が人権侵害であることを特に強調しつつ、人権教育を全学校のカリキュラムの優先事項に組み入れるよう主張する
3．NFAs は政府と民間機関に対し、あらゆる形態の DV を当局が認識する助けとなる研究に資金提供するようさらに努力して促す

決議 4　欧州評議会条約等国際法をDV防止法の見本に

1．NFAs は、自国政府に対し、国内の女性に対する暴力や DV への対策と防止に関し、欧州評議会条約が有用なモデルだと認識することを要請する
2．NFAs は、自国政府がもし関係国であるなら、この条約を批准または同意するよう要請する
3．NFAs は、自国政府に対し、刑法を国際法に準じて見直し、あらゆる形態の DV が適切に対処され法律に違反する行為を行うものが罰せられるよう要請する
4．NFAs は、レイプは配偶者間でも起こり得るものであり、それが犯されたなら刑法犯罪にあたるという社会的及び法的認識を社会に啓発する

決議 5　人身取引とおぼしきもの全ての廃止のために

1．NFAs は自国政府に対して、人身取引を思わせる状況には「ジェンダー対応」というコンセプトを導入することによって全ての形の人身取引を終わらせることを追求するよう要請する
2．NFAs は自国政府に対して、人身取引に関する知識を増やし、広く普及させ、適切な場合、人身取引と戦うことは全ての政治的課題に優先するものであることを確認し、また人身取引に関する独立の担当者を国で 1 名任命するよう要請する

決議 6　国連総会代表団に女性を送ろう

1．NFAs は、各国から 1 名の女性の国連代表（UNWR）を備えるという選択肢について国内および地方の女性組織を関与させ、伝えるよう自国政府に要請する
2．このことが成されたなら、NFAsは、女性の国連代表を毎年選出するプロセスを備えることを自国政府に要請する。この選出のプロセスは公正で透明性のあるものとする
3．このことが成されたなら、NFAs は自国内のほかの女性団体と協力して、女性の国連代表 1 名が、毎年、国連総会に派遣される政府代表団に含まれるよう努める

決議７　学校への道を安全に

1．NFAs は自国政府に対して、アフガニスタン、パキスタン国内や、教育へのアクセスが少なかったり、安全でなかったり、危険を伴う他の国々で、あらゆるレベルの教育を求め、参加し、推進している女児と女性を支援する効果的な行動をとるよう要請する

2．IFUW は国連、ユニセフや他の国際機関に持つ常設の委員会や協議資格を使って、この決議の履行を助ける

学校は楽しい！（Photo：UNICEF）

決議８　非国家主体による、拷問の禁止

1．NFAs は、自国政府に対し、何人（なんぴと）も、特に女性と子どもが、非国家主体（Non-State actor）による拷問を受けないことを確実にするための措置を自国の法律、政策、慣習に取り入れ、実行することに精励するよう要請する

2．NFAs は、自国政府に対し、女性と女児が非国家主体による非道極まる形態の暴力と拷問を圧倒的に多く受けている事態に鑑み、国連の議題にあるジェンダーに対応した枠組みの優先性を尊重するよう要請する

3．NFAs は、自国の政府に対し、同政府が批准した非国家主体による拷問に関わる国連の人権締約への取組みを支援するよう要請する

4．IFUW は、その常設委員会、国連の経済社会理事会（ECOSOC）に有するその諮問的地位、並びにそのウェブサイトを活用して、本決議を履行する

決議９　先住民のための教育環境の充実

1．NFAs は自国政府に対し、先住民の指導者と協調し、幼児教育、学校施設、機材、図書、インフォメーション・テクノロジー、技能開発および文化的に対応したカリキュラムのための資金を含む教育目的基金を提供することを要請する

2．NFAs は自国政府に対し、その基金がインフレに対応し、人口の年次増加に対して調整されるよう要請する

3．NFAs は国、地方、領土および先住民の政府に対し、協働して、信頼可能で資金を有し、質の良い教育制度をつくることを要請する

決議10　強制売春を罰せず、買春を罰せよ

1．NFAs は自国政府に対して次の立法措置を取るよう要請する：

(a)（印刷物、インターネットその他の技術的ツールを含む）あらゆる場での性を買うことを禁止する

(b) 性を買った者に対して刑事罰を科する

(c) 売春された者に対して刑事罰を科さない

2．NFAs は、自国政府に対して、売春を余儀なくされた者が、重ねて売春することなく生活費を稼ぐことができるようにするために必要欠くべからざる各種支援と資金手当を講ずることを要請する

決議11　非武装文民の平和維持活動・その理解と促進

1．NFAs は、世界の戦闘頻発地域に住む女性や子供達の保護のため、武器を持たない文民の平和維持活動（UCP）として知られている、非暴力の手段について、会員自身と一般の人々を教育するように各会員に要請する

2．NFAs は、自国政府に対し、実行可能な国家防衛戦略としての武装軍備と同じく文民の平和維持活動（UCP）を役立てることを要請するよう各会員に奨励する

3．IFUW 指導部は、常任委員会及びIFUW 国連代表を用いて、国連安全保障理事会に対し、UCP を女性、平和、安全保障に関する国連決議の実施に組み込むように要請する

決議12　女性にしわ寄せする経済グローバル化を再考せよ

1．NFAs は、自国政府に対して現在進行中のグローバリゼーションが世界中、ことに途上国で女性および女児の不平等と窮状を一段と悪化させていることを認めて、グローバリゼーションの政策によって生じた「貧困の女性化」を低減・改善するため直ちに適切な措置を講じるよう要請する

2．NFAs は、最も有害な世界銀行（WB）の貸付の諸条件、国際通貨基金（IMF）の政策勧告、世界貿易機関（WTO）の諸協定に反対する

3．IFUWは、金融中心のグローバリゼーションではなく、開発中心のグローバリゼーションを支持し、「2012年ドーハ・マンデート」を強く支持するためその持てるすべての力を使って、カタール国の首都ドーハにおける第13回国連貿易開発会議（UNCTAD XIII）の成果を支持する

ヒューマン・ストーリー　第1回

JAWW 代表・JAUW 元会長　田中　正子

会長　阿部 幸子

大学女性協会は、生涯を通じて学び、成長し続ける場でもあり、会員の多くの方々が、活動を通して学び続け、リーダーとして育っておられます。そのような方々に登場していただくページとして「ヒューマン・ストーリー」を設けることにいたしました。第1回は田中正子会員にご自身の活動について語っていただきました。毎号での掲載はできませんので不定期にはなりますが、今後もこの企画を続けていきたいと考えています。「ヒューマン・ストーリー」に相応しい方を、ご推薦下さいますようお願いいたします。

田中正子さんを囲んで（広報委員会）

Q１．田中さんは、はじめ札幌支部に入会されたのですね。

はい、北大に勤務していた1972年でした。当時の札幌支部は書道、和歌、英語の教室を一般公開し、収入源にもして活動は大変活発でした。'83年には支部長をしました。

Q２．その後神奈川へ。'92年には支部長になられました。

出身大学順でやむを得ず引き受けたのです。仕事が忙しく時間がないので、月１回の例会は続けながら、年間ひとつの調査研究を行うことを活動の中心にしました。例会出席者はだいたい10人くらいでしたが、楽しかったですよ。県下の環境教育調査のときは、新聞記事の切抜きと簡単なコメントを皆さんに書いてもらい、環境教育をやっている高校を訪ねて行って、全校生徒を巻き込んだ NOx 測定をしている先生から話を聞いたり、自分達で教科書までつくった夜間高校の先生の話を聞いたりしながらまとめました。

Q３．支部長時代の４年間で４つの調査、全国セミナー発表が３回。'94年に理工系女学生について調べたとは、最近話題の「リケジョ」に先んずること20年！

前々からなぜ女子が理系に少ないか原因を探りたかったのです。化学がご専門だった八木教育委員長や出身大学の先輩にあたる山中国内奨学委員長、岩村道子前理事にもご協力頂いて、東大、東工大、千葉大の学生など最終的に３千人にアンケート調査をしました。生育環境、教育環境に男子との差があることがわかりました。

Q４．ふつうのボランティア活動ではない感じですが…。理系女子の調査がIFUW横浜大会のワークショップに繋がったのですね。

はい、調査ができたのは、なぜなのか明らかにしたいという点で、仕事と似ていたからでしょう。そして見えてきた問題に興味を覚え、それなりの手応えも感じました。横浜大会のとき私自身は支部長として戸塚会場に泊まり込みで詰めていました。本会場のパシフィコでは鶴見和子さんが侵略や慰安婦問題に触れつつ平和学の基調講演をなさり、韓国の参加者にも感動を与えたそうです。IFUW の平和学研究と平和教育の調査に日本が350万円を拠金しました。翌'96年に突然、教育委員長を依頼され、委員会と広島支部合同の「日本における平和教育」に取り組むことになりました。教育委員会は中学教科書の原爆、侵略戦争、平和憲法の記述に焦点をあて、各自が調べ、月一回集まっては楽しく活発に議論をしました。

Q５．グラーツの発表はそれですね。

はい、英語に自信はなかったので原稿の翻訳はお願いし、中村ミチ先生には後ろについて頂いて全体会の発表に臨みました。結果的に成功したと思います。大会後、国内では「留学生と日本文化を学ぶ会」、今の文化交流委員会をたちあげました。グラーツのあとオタワ、パースの大会で平和学、平和教育の学際セミナーのコンヴィーナー（応募論文の選考と当日の進行役）を務めることになりました。

Q６．IFUW 国際奨学委員もなさいましたね。

パース大会中の指名です。英語への不安は言われました。自分自身、苦手意識を乗り越えることができたのは、それを理由にはできないという思いと「やらざるを得ない」という気持ちからでしょう。脳天気なのかも知れません。

Q７．'06年から JAUW 会長を務められ、「中東女性交流」などの国際交流もてがけられます。国際的な活動のひろがりは、IFUW がきっかけですか。

それもありますが '99年に房野さんに誘われ北京＋５にむけて各国の課題をレポートにまとめて国連に提出しようという運動に入ってからです。この運動が今のJAWW（日本女性監視機構）の発足につながりました。「女性監視機構」の活動を国内でまとめ、東アジアでまとめ、そしてアジア全体でという構想のために、アジア太平洋女性監視機構（APWW）ができましたがその設立に尽力されたお一人は中村道子様です。CSWの日本政府代表になられた橋本ヒロ子さんに代わって代表になり、今日に至っています。

Q８．この展開は化学者の田中さんに予想できましたか。

こうなるとは思っていませんでしたが、IFUW の活動などは、自分の関心と専門性に導かれ、そして活動の場を作って下さった先輩会員のおかげと感謝しています。実際、調査研究なども、仲間に恵まれて楽しくやってきました。専門性を生かしつつ、世の中の動きに敏感になり、ジェンダーの視点から問題提起をする活動がこれからますます大切だと思います。

第68回国連総会第３委員会から ―こぼればなし―　鷲見　八重子

10月６日（日）の夕刻、初秋のたたずまいのＮＹに到着。翌７日の午後、さっそく「社会開発」に関する日本政府のステートメントを読みました。昨年の総会で採択された日本・ブラジル共同提案の「ボランティア主流化」決議をふまえ、半世紀に及ぶ青年海外協力隊の活動と、2004年スタートした学生ボランティア派遣事業を紹介。今年は全国５大学から12名の学生がカンボジア、サモア、ケニア、ルワンダなど12か国で国連ボランティア特使として友好・平和に貢献したホットなニュースです。この記事が国連代表部の Facebook に掲載されたところ、その日のうちにＵＮＶ東京の Facebook で紹介してくれました。どうぞ、ぜひ覗いてみてください。

社会開発を読む筆者

https://ja-jp.facebook.com/pages/UNV-Tokyo/410937692302244

事業紹介 広報事業紹介

広報担当理事　佐々木　澄子

広報事業は、JAUW の活動を会員のほか、当協会を支援し関心を持っていただく外部の方々に、報告・伝達するという仕事を担っております。広報委員会は1949年よりJAUW会報の編集、発送を手がけ、今号で第250号となり、情報委員会は2002年に活動を開始し、JAUW ウェブサイトの立ち上げ、管理を行っています。

ここ十数年の広報・情報の伝達の手段は格段の発達をとげ、広報委員会は本年度より JAUW 会報の冊子化、カラー化を実現しました。情報委員会も時代に即した改革に向けて動き出しております。

広報委員会　委員長　端本　和子

会報

大学婦人協会

贈呈者及び賞

行政面並びに奨学

経営の強化策へ

文学賞発表

家族制度

会報『JAUW』第１号発行は1949年６月18日でした。JAUW 設立の２年後です。１面には「第３回総会神戸女学院で開く」の見出し。総会報告には「協会英語名をJACAより JAUW と改む」と記されています。第２号１面は「奨学金授与式を挙行―文化の日、日比谷で晴の式典―」と希望と使命感にあふれた記事が掲載されています。

1954年には国連 NGO である IFUWに加盟しました。その年の会報16号（８月１日発行）には１面に「家族制度復活に反対する!!」、「国際大学婦人連盟へ加入」、「1955年度奨学生募集」などの見出しが大きく出ています。

会報『JAUW』は今号の250号まで発行されています。そして、JAUWの活動をつぶさに記録してきました。会報事業の目的は公益目的事業と活動の報告を編集することです。会報は最初２ページでした。ページ数は折々変わりましたが、タブロイド判形式で2013年３月４日発行の248号まで続きました。2009年７月発行234号からはHP上で、簡単に会報が見られるようになりました。事務所では会報１号から200号までの CDR を借りることができます。

2012年、JAUW は公益法人から一般社団法人に移行し、『JAUW』も A4判カラーの冊子になりましたが、いかがでしたか？広報委員会は65年の広報の伝統を守りながら、委員一丸となって、JAUW の活動を届けていきます。

情報委員会　委員長　松鹿　光

時代のニーズに応えて1999年６月に大学女性協会のWEBサイトが新設され、情報委員会としては2002年度より活動が開始されました。

2003年にJAUWのドメイン名（jauw.org）を取得、レンタルサーバの契約などの細かい手続きを経て、WEBサイトの基本の階層構造を構築致しました。

2007年に現在のサーバに移転し、その際にデザインを刷新、現在に至っています。

毎月の本部・委員会・支部のページの更新に加えて、通常総会、セミナー・シンポジウム、IFUW 総会、奨学金、音楽会、IFUW UPDATE 等、次々に新しいページを作成・追加しています。また支部のイベント情報も目に留まるよう、Top ページ右側（Notice Board）からリンクを貼っています。会報も234号よりご覧頂けるようになりました。

会員相互の情報の伝達はもちろんのこと、入会希望者や国内外からの奨学金の申し込み方法がお分かりになり易いように、またIFUWの会員からのアクセスも意識して、英文ページも充実して参りました。今後は関係機関とのリンクも広げていきたいと考えています。

この他、理事会と支部長･委員長との連携を図るためのメーリングリストの作成･管理、事務の効率化や利便性を考えて、事務所内の IT 機器の整備も行っています。

委員会設立当初は、パソコン操作の学習会やイベント会場での機器操作等も積極的に行って参りましたが、パソコンの一般普及に伴って、現在ではその任務を終えています。

JAUW2014・2015年度役員（理事・監事）候補者推薦依頼

正会員の皆様へ
～絆文化創成ボランティア～ 自薦・他薦 大歓迎～

役員選考委員長　時枝　裕子

酷暑の夏、大きな台風の被害を越え、イスタンブールで IFUW 総会、岡山で JAUW 全国セミナー、支部・委員会の多彩な行事に明け暮れいたしました今年も、残り少なくなりました。深まる秋の１日、皆様には２年に１度の重要なアクションを、ゆめゆめお忘れなく必ずかならずご実行いただきたく、謹んで標記のお願いを申し上げます。

すなわち JAUW は来春の総会で現役員が任期満了致しますので、2014・2015年度の理事および監事を、定款第５章第22条および第25条により、役員選考規程（各支部長保管）に示された行程をもって、予め選考しておかなければなりません。

つきましてはこの際、正会員から次期役員候補者の推薦（自薦・他薦１名～18名）をいただくことが、役員選考につづく本協会のすべての活動の基盤であると、ご賢察をお願い申し上げます。本会報に同封の役員候補者推薦関係書類（①、②、③）のご活用を、お待ちしております。

①次期役員候補者推薦用紙：自薦・他薦、１名～18名、氏名の連記欄に、お知恵と情熱を傾け、ご記入ください。
②別表１および２：理事の役割分担および、次期役員候補者としての推薦が無効となる者の氏名リスト。
③返信用封筒：候補者氏名を記した推薦用紙を封入、恐縮ながら80円切手を貼り、12月15日までにご投函をお願い申し上げます。

支部だより　北から～南から

支部の行く末を案じながら　秋田支部長　川口　百合子

Q　最近の支部の活動は？

A　高齢化という点で秋田県はトップといっていい程の進み具合である。秋田支部も同じ悩みをかかえながら３つの目標を中心に細々ではあるが活動を続けてきた。

(1)　奨学金授与―秋田支部の重点目標として長く続けてきた制度で、今年もバングラディシュの２人の女性にバニヤンツリーを通して奨学金を差し上げた。感謝の言葉と共にお手紙をいただいた。

(2)　会員研修―会員は文学、数学、美術、茶道等専門の知識や技術を持っておられ、その方をリーダーとして研修を続けてきた。メンバーのほとんど全員にリーダーを務めていただいたが、俳句の会が好評で、今年の５月、桜咲く千秋公園で２回目を開くことができた。

(3)　他支部との交流―東北６県の中で支部があるのは仙台と秋田の２県だけである。仙台支部長から温かい言葉をかけていただき、昨年仙台支部の公開講演会に参加、その後支部会員との交流会があり、刺激をいただいた。今年も共催は無理でも来年２月に予定の仙台の講演会に参加、何かお手伝いできればと思っている。

Q　ご当地自慢・支部自慢は？

A　秋田は春夏秋冬の区別がはっきりしていて、それぞれの季節においしい食べ物、祭り、行事があり、温泉にも恵まれ、人のぬくもりを感じていただける場所である。総会やセミナーに参加すると、秋田での全国大会の思い出を話して下さる方がいるのはうれしい限りである。

Q　これから力を入れていきたいことは？

A　支部の存続を模索しているところである。

総会の後の懇親会にて

小さな、小さな支部だより　熊本支部　大堂　喜三子

Q　最近の支部の活動は？

A　年に３回の集会をもつだけで、他の活動は殆んどできていない状態です。以前は総会と３回の例会を持っていましたが、ここ数年会員が減少し、経費の面からも例会を２回にして活動しています。できるだけ海外交流を組み入れること、１回はどこかに出かけて現地見学をすること、社会の変化に応じた現象等取り入れること等を考慮しています。海外交流としては留学生の方に茶の湯を経験してもらうとか、毛筆の年賀状を体験してもらう等しました。外へ出かけることでは、人吉の青井阿蘇神社が国宝に指定されたのを機会に、蒸気機関車に乗って神社を訪問しました。直方の炭鉱の生活を記録した世界記憶遺産の絵画は、バスに乗って出かけ鑑賞しました。熊本の上海事務所が設置された際には、それに関った方のお話を聞く会を持ちましたし、測定に協力している熊本の大気汚染については、詳しくお話をしていただきました。

Q　ご当地自慢・支部自慢は？

A　支部自慢は余りないですが、少ない会員ですから、特別役員会等しなくてもベテランの会員の方に、いろいろ支えていただいて和やかにやっています。熊本自慢はいろいろあります。先ず水がおいしいことです。水道水をそのまま飲める都市は余りないのではないかと思いますが、水道の水源を地下水でまかなっているからです。阿蘇高原の雄々たる風景は、四季折々の変化もあり、ほんとうに自慢できるものです。他にもありますが。

Q　これから力を入れていきたいことは？

A　今後の事については何と言っても会員の確保が最大の課題と思っていますが、どうかお力をおかし下さい。

熊本支部第１回例会　人吉青井阿蘇神社見学

活発になった支部間協働事業

主催　神奈川支部　　共催　静岡支部

多文化共生社会における新入国外国人（定住者）への教育を考える
～外国人の子供の義務教育化と大人への教育システムの構築～

異文化を受け入れ国境を越えた多彩な人材を採用する企業が生き残る時代になりました。この社会のニーズに応える講演会「多文化共生社会における新入国外国人（定住者）への教育を考える～外国人の子供の義務教育化と大人への教育システムの構築～」が神奈川支部主催･静岡支部共催で９月28日に開催されました。講師は神奈川支部の山瀬恵子さんと静岡支部の勝又幸子さんです。かながわ県民活動サポートセンターの会場は８名の一般参加もあり満席となりました。

講師の山瀬さんは約15年余りインドシナ難民のカウンセリングをされ、その経験から「多文化社会への夜明け」―インドシナ難民定住者からの学び―を著されました。この冊子を読んだ神奈川支部の会員から「もっと知りたい」という意見がでて、この講演会が実現しました。

外国人の自立支援の数ある課題のひとつは、日本に定住して本国に残る子どもを呼び寄せた時、その子どもが15歳を過ぎて義務教育年齢を超えていると、学習する場がないことです。

勝又さんは静岡支部の外国人支援の取り組みを一般の方にもわかりやすく話されて活発な質疑応答がありました。阿部会長も一会員として来場され「IFUW との協働事業や支部活動について新たな道が見える」と高い評価をいただきました。11月30日には静岡支部主催により公開セミナー「今、外国人は困っている」が開催されます。これらの問題は、辛抱強く継続して対処することが重要と言われています。世界の潮流から私たちが取り残されないようにこれからご一緒に学びませんか。では、静岡でお会いしましょう。

神奈川支部長　市川知恵子

満席の会場

静岡支部公開セミナー

「今、外国人は困っている」
開催

平成25年11月30日㈯　午前10：00～11：45
会　場　あざれあ　５階第３会議室（JR静岡駅から徒歩10分）
　　静岡市駿河区馬渕1-17-1
参加費　無料

外国人と寄り添ってきた３名のパネリストが登壇します。

主催　事業委員会Ｄ　　共催　茨城支部

「つくば施設見学と茨城支部との交流」

事業委員会Ｄ　大森たへ子

新体制になってから初の支部との共催事業として、「つくば施設見学と茨城支部との交流」を９月28日（土）に行った。昼食をとりながらの交流、バスで移動して、２か所（産総研、宇宙センター）を見学。相互の理解と協力で、快晴と上手なガイドにも恵まれ成功裡に終えた。参加者交流21名、見学20名。

筑波研修交流　　茨城支部長　今高　博子

今回の事業は本部、支部の初共催であること、又、本部事業委員会の収益事業という位置づけで、企画実行の支部本部の棲み分けや、収益金の扱い方に戸惑うことがあった。しかし茨城支部に限っては担当者が本部役員でもあったので連絡調整がスムースに運び、当日は素晴らしい交流が持てた。茨城支部として精一杯のおもてなしの気持ちが伝わったと信じたい。産総研のロボット「タイゾウ君」の介護予防体操、JAXA ガイドのポロっと出てくる裏話等々面白かった。宇宙食ショップに寄れなかったこと、重い手荷物を終始持ちながらの見学は支部の調整不足と反省する。せめて帰りの電車の席に疲れた体を置けるよう願うばかりだった。

ロケット広場にある50m もある「H-Ⅱロケット」の前で

つくばの印象　　東京支部　廣田　里子

日本の強さを感じる１日でした。国家プロジェクトとして50年をかけて造った学園都市とて、「つくば駅」に足を踏みおろした瞬間、独特の清々しさを体感、２万人超の研究者とここで幼少期を過ごす世代が築く未来を夢見ました。科学者かと思うほど巧みなガイド嬢の説明は分かりやすくてよかったです。世界的に珍しい地質標本館、最先端のロボット技術を結集した「サイエンススクエア」、日本が誇る数々のロケットや人工衛星の展示に加え、「きぼう」の宇宙ステーション実物大モデルの中での飛行士体験をしたJAXA（宇宙センター）それぞれに感動的でした。

JAUW 新春のつどい

今年度も、恒例の「JAUW 新春のつどい」を下記のように開催いたします。国内奨学金贈呈式は、大学女性協会の大切な公益事業の一つです。未来への希望と意欲にあふれる奨学生のスピーチは、毎年私たちに大きな感動を与えてくれます。懇親会では俳優・アーティストとしてさまざまな舞台で活動されている金子あいさんの朗読（語り）をお楽しみ下さい。会員の皆様、また会員外の方々もどうぞお誘い合わせの上、多数のご参加をお待ち申し上げております。

日　時　　2014年１月11日㈯　11：00～14：30
場　所　　新宿　京王プラザホテル　南館4F「扇」
　　新宿区西新宿2-2-1　　03-3344-0111（代表）
プログラム
　１部　　2013年度　国内奨学金贈呈式
　２部　　懇親会
　　朗読　　金子　あい
　　会食・懇談
会　費　　10,000円
申込先　　（一社）大学女性協会　本部事務所
　　Tel：03-3358-2882　　Fax：03-3358-2889
　　E-mail：jauw@jauw.org
申込締切日　2013年12月20日（12月28日までにお振込みください）
振込先　　三菱東京 UFJ 銀行四谷支店
　　普通預金・口座番号1077777
別　口　　一般社団法人　大学女性協会　　理事　阿部　幸子
　　なおキャンセルは３日前までとさせていただきます。

今回も事業委員会のバザーを致します。どうぞお楽しみに。
皆様からの寄贈品を事務所にて随時受け付けております。
（一社）大学女性協会

第12回　自然科学講演会のお知らせ

「高温超伝導の科学と夢」
講　　師　田島節子会員（科学研究奨励委員会）
　　大阪大学大学院理学研究科教授　日本学術会議会員
日　　時　12月14日（土）14：00～16：00
場　　所　お茶の水女子大学　理学部３号館701大講義室
申し込み　12月11日（水）までに JAUW 事務所へ

今世紀の物理学の課題の一つとされています極低温で電気抵抗がゼロになる現象、超伝導について紹介していただくと同時に、超伝導技術を応用することによって描ける未来の夢についてわかりやすくお話しいただきます。
科学研究奨励委員会（東京支部・お茶の水女子大学理学部共催）

≪丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます。≫
お歳暮・お中元の時期のほか、記念品・新築祝・開店祝
御礼・内祝・快気祝等、いつでもご利用になれます。

丸大食品株式会社　首都圏特販営業課　　担当：奥 功
〒135－0051　東京都江東区枝川2－23－2
TEL03（3647）3270　　FAX03（3647）3274

2013年度国際奨学生の紹介と報告会のご案内

ユリアナ・ホロトバさん

スロバキア出身のユリアナ・ホロトバさんは、９月から法政大学沖縄文化研究所に在籍、来年２月の沖縄での発掘調査に向け資料集めに専念しています。祭政一致の古代沖縄では神託を得て神事を司る女性が、政治を担う男性に対して上位に立ち、直接、霊的指導に当たったそうです（本土も同様とか）。神器、衣装、服飾品等の出土品による考古学的に一貫した女性優位の立証が目的です。**報告会：来年３月６日午後　於四谷本部事務所**

シティ・フスニア・チュミランさん

一方、マレーシア出身のシティ・フスニア・チュミランさんは10月21日に来日、京都大学生存圏研究所でレーダーによる大気の観測技術の習得を始めたところです。豪雨による大洪水などの被害が多発しているマレーシアで、この技術を降雨の予測・観測に応用してゆくことが目的です。この技術の日本からの輸入が計画されており、帰国後のシティさんの活躍が期待されます。**京都支部ご協力による報告会と研究所見学：来年２月下旬　於京都大学生存圏研究所**　　（国際奨学委員会）

名器と巨匠の究極の出会いコンサート

2013年12月６日（金）19：00開演　　於求道会館

このたび88歳のピアニスト、ルース・スレンチェンスカ氏が来日される機会があり、東日本大震災への支援を是非させてほしいとのご意向を受けて、特設委員会では求道会館で演奏会を開く事を決定しました。ピアノは岡山市在住の三船文彰氏所有のクララ・シューマンが演奏に使用したと言われる1877年製スタインヴェルグのピアノです。またヴァイオリニスト久保陽子氏もご参加下さり、1722年製のストラディヴァリ（台湾の奇美博物館所有）で演奏されます。このような出会いは２度とないと思われます。是非ご鑑賞をお願いしたくご案内申し上げます。

チケットは特設委員会・JAUW 事務所に申し込み下さい。収益金は、全て東日本大震災の被災高校生支援金に寄付されますので、どうかご協力をお願いいたします。

チ ケ ッ ト：6000円　全席自由
問い合わせ：JAUW 事務所
　　TEL03-3358-2882

理事会から

- 2013年度一般奨学生、安井医学奨学生、社会福祉奨学生が選考され、11月の理事会で承認されました。
- 2014年度国際奨学生の募集案内がJAUWホームページに掲載されました。IFUW 加盟国にも協力を依頼。
- 鷲見八重子理事の国連総会報告会が12月４日㈬　13：30より婦選会館で持たれます。
- 丸大ハムのカタログを同封いたしました。ご協力をお願いします。

一般社団法人　大学女性協会
〒160－0017　東京都新宿区左門町11番地６－101
電　話　03－3358－2882　　ＦＡＸ　03－3358－2889
http://www.jauw.org　　E-mail：jauw@jauw.org
発行人　阿部　幸子　　編集責任者　端本　和子
発行日　平成25年11月25日